



アルツハイマー型認知症

日本における認知症の患者数は200万人と推定され、65歳以上では10人に1人、80歳以上では4人に1人が認知症であるといわれています。その40～60%がアルツハイマー型認知症です。

今回は認知症で一番原因が多い、アルツハイマー型認知症について解説します。

はじめに

アルツハイマー型認知症は、脳内にアミロイドベータやタウと言われる異常な蛋白が蓄積し、脳細胞が徐々に死滅していくことで起こります。なぜ異常蛋白が蓄積していくかは分っていません。

最初に、側頭葉にある短期記憶をつかさどる海馬から病変がはじまり、やがて脳全体に広がっていき、脳が委縮してしまいます。病状は初期・中期・後期へと10年ほどかけて進行していきます。



症状

中核症状

記憶障害	
短期記憶障害	何度も同じ質問をする。今日の日付がわからない。置き場所を忘れて探し物をしている。
長期記憶障害	自分が通っていた学校の名前、していた仕事などが分からなくなる。
エピソード記憶の障害	自分がしたことそのものを忘れてしまう。

見当識障害	
時間や場所、自分と周囲の関係を理解することができなくなるため、迷子になったり、良く知っているはずの人が誰なのか分からなくなる。	

実行機能障害	
目的を果たすために作業を順序立てて行う能力の障害で、家事ができなくなります。	

高次機能障害	
失語	物の名前が出てこない。長文が話せなくなる。読めるが理解できない。
失認	視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感の一部が障害され、例えばりんごを見ても分らないが、触ったり、食べたりすることで認識する。
失行	目的とする行動がわからなくなる。服の着方がわからない。リモコンが使えなくなる。

周辺症状（BPSD）：中核症状から派生する症状

- 記憶にないこと、理解できないことを笑って誤魔化する。
- 作話 記憶が抜け落ちてしまっていることの帳尻を合わせるために、周囲には理解し難い話をする。
- 不安・うつ症状
- もの盗られ妄想 片付けた行為そのものを忘れてしまうため、“盗まれた”と訴える。
- 徘徊 記憶障害や見当識障害により、何をしに外出したのか、どこへ帰るのが分からなくなる。
- 暴言・暴力・介護拒否 不快に感じると、理性による抑制が効かないために起こる。
- 摂食障害・嚥下障害 食事をする意欲も低下する。

	初期 2～5年	中期 2～5年	後期 5～8年
中核症状	記憶障害 実行機能障害 失語	見当識障害 失行	失認
BPSD	作話 もの盗られ妄想 不安・うつ症状	徘徊 暴言・暴力・介護拒否	失禁 摂食障害

治療

アルツハイマー病では、神経伝達物質であるアセチルコリンが著しく減少しています。アセチルコリンを分解する酵素には、アセチルコリンエステラーゼとブチリルコリンエステラーゼの二つがあり、これらを阻害することでアセチルコリン量を増やし、病状の進行を抑制します。

アリセプト®	アセチルコリンエステラーゼを阻害する。
イクセロンパッチ®・リバスタッチパッチ®	アセチルコリンエステラーゼとブチリルコリンエステラーゼの二つを阻害する。
レミニール®	アセチルコリンエステラーゼ阻害作用に加えて、アセチルコリン受容体の作用を増強する。
メモリー®	BPSDの原因の一つである、グルタミン酸受容体の興奮を抑制して、その改善を図る。

私が認知症を疑う症状で多いのは、今まできちんと薬の管理ができていた方が、突然とんでもない日に「薬がなくなりました」といわれる時です。

当院は市民病院神経内科とも連携して、認知症患者さんの診療を行っております。上記の症状に思い当たることがあるようでしたら、ご相談ください。

